

令和8年度 地域包括ケアとコミュニティソーシャルワーク研修 実施要項

ー 地域共生社会の実現を目指す職種横断的研修 ー

1. 目 的（趣旨）

昨今の少子高齢化や人口減少、核家族・単身世帯の増加等の社会構造の変化に伴い、地域においては社会的孤立や生活困窮、虐待など深刻で多様な問題が顕在化しています。

このような中、国、自治体、民間レベルが相互に連携、協力し、地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制整備が進められています。

これらに共通する視点は、個人の生活を、地域を基盤として支え、ネットワーク形成や社会資源開発を含めた地域づくりそのものを目指していくことであり、それらを実現していくために、コミュニティソーシャルワークの展開が求められています。

また、誰もが安心してその人らしく暮らすことができる地域づくりのためには、既存の制度・サービスだけでは対応が困難な課題を抱える人々に対して、身近な場で生活者と同じ視点を持って、地域住民や関係機関・団体と協働して支援を行うことが求められています。

本研修は、これらの役割を担う支援者や地域の実践者が、多様で複合的な地域生活課題への対応力を養い、解決につなげることができるよう、コミュニティソーシャルワークの視点や考え方を理解し、その展開プロセスや手法を学ぶための機会として開催します。

2. 主 催 社会福祉法人富山県社会福祉協議会、富山県福祉カレッジ

3. 協 力 特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所

4. 後 援

富山県地域包括・在宅介護支援センター協議会、富山県老人福祉施設協議会、富山県知的障害者福祉協会、（公社）富山県精神保健福祉協会、（一社）富山県社会福祉士会、富山県精神保健福祉士協会、（一社）富山県介護支援専門員協会、富山県相談支援専門員協会、富山県医療ソーシャルワーカー協会、富山県民生委員児童委員協議会、富山県

5. 期 日

（1）前期課程 令和8年10月29日（木）・30日（金）

（2）後期課程 令和8年12月10日（木）・11日（金）

6. 定 員（予定） 25名

7. 会 場

パレブラン高志会館「麗花」 富山市千歳町1-3-1 電話：076-441-2255

8. 参加対象者

- (1) 市町村社会福祉協議会職員
- (2) 相談援助業務に従事する職員（地域包括支援センター職員、障害者相談支援機関職員、介護支援専門員、スクールソーシャルワーカー、生活困窮者自立支援事業における自立相談支援機関職員、福祉サービス等と連携し地域での生活を支援する医療機関職員 等）
- (3) 市町村行政において包括的支援体制整備や地域福祉を担当する職員
- (4) 社会福祉法人の「地域における公益的な取組」の担当者
- (5) 民生委員・児童委員、ケアネット活動リーダー等

9. 日 程

【前期課程】

【1日目】10月29日（木）

時間	内容	講師等
9:00	受付	
9:20	開会・オリエンテーション	
9:30 (120分)	【講義①】 「地域共生社会政策時代における地域包括ケアと コミュニティソーシャルワーク」(仮) 地域福祉関連制度・施策の歴史的展開と今日における コミュニティソーシャルワークの必要性や意義を学ぶ	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏
11:30 (40分)	【演習①】 事例報告 ～県内の事例から～	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏
	事例① 小矢部市社会福祉協議会 主査 八十島 拓也 氏	富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
	Aさん男性25才、療育手帳Bを所持。60代の母（要介護状態）と30代の兄の3人暮らし。障害者枠で安定して働くことができている一方、体重の増加が顕著であり、健康への影響が懸念されている。日常生活を送る中で、同居家族からのアドバイスはあまりなく、本人なりに身につけた能力を活用し、自由な生活を送っている。長年の雨漏り等による住環境の悪化や母の介護、ゴミ出し等地域や専門職から見ると課題は多いが、Aさんから困ったという訴えは一切出てこない。困り感のないAさんにとっての普通の暮らしや、将来的な自立を見据えたときに必要な支援を考える。	
	事例② 横田・西条・成美地域包括支援センター ケアマネジャー 奥田 貴子 氏	Aさん女性77歳、無職の長男51歳と2人暮らし。市外に長女がいるが疎遠。生活保護受給世帯であるが、金銭管理ができず、カード会社からの督促状がくる。家賃の支払いもできない。長男は、過去に自己破産した経験があるが、毎月的生活保護費の使途は不明。長男が、2階で猫を6匹飼っており、砂や餌代にお金がかかる。本人、変形性股関節症による左股関節症（身障5級）だが、生活の場が2階、1階にトイレ・洗面所・洗濯機があるため、傾斜の急な階段の昇降をしている。生活環境が悪く、家計の収支把握不足と息子の浪費があり生活困窮している親子を今度どう支援していけばよいか検討したい。

事例③	相談支援事業所 well 主任相談支援専門員 石川 ひとみ 氏 母親（療育手帳 B）、長女（身体障害者手帳）、長男・次男・三男（療育手帳 B）と次女、80 歳を超える祖母の世帯。母親は就労継続が難しく健康面にも不安があり、祖母が孫の世話や家事を担っている。母親や長男の金銭トラブルもありながら家族間で支え合う生活が続いている。家族の結びつきは強く、困り感の表出は少ない。家族それぞれに支援者はいるが、世帯全体を見据えた支援体制は十分とは言えず、祖母の高齢化や母親の健康悪化により生活環境が大きく変化する可能性を踏まえ、多機関連携による包括的な家族支援のあり方や、滞在的な支援ニーズを早期に把握する地域の仕組みづくりについて考える。	
12 : 10	昼食・休憩	
13 : 10 (90 分)	【演習②-1】事例検討(1) 「コミュニティソーシャルワークの視点による 個別課題アセスメント」 報告のあった個別事例に基づき、必要なアセスメントの視点と枠組みについて考える	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
14 : 40	休憩	
14 : 50 (130 分)	【演習②-2】事例検討(2) 「コミュニティソーシャルワークの視点による 問題解決方針の立案と援助システムづくり」 報告のあった個別事例に対する援助方針の立案とその具現化に必要なシステムについて考える	
17 : 00	終了	

【2日目】10月30日（金）

時間	内容	講師等
9 : 30 (100 分)	【演習②-2（続き）】事例検討(2) 「コミュニティソーシャルワークの視点による 問題解決方針の立案と援助システムづくり」	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏
11 : 20 (50 分)	【演習③ ロールプレイ】 「ヴァルネラビリティのある人の相談支援」 自己覚知を通してヴァルネラビリティのある人の相談支援のあり方について学ぶ	富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
12 : 10	昼食・休憩	
13 : 10 (80 分)	【演習③ ロールプレイ（続き）】 「ヴァルネラビリティのある人の相談支援」	
14 : 30 (40 分)	【講義②】 「ヴァルネラビリティのある人の特性とアウトリーチの必要性」 ヴァルネラビリティのある人の特性を理解し、発見の仕方や適切な相談支援へのつなぎ、信頼関係の構築について学ぶ	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏

15 : 20 (100 分)	【演習④-1】 「コミュニティソーシャルワークの展開と問題解決プログラム開発 (1)」 コミュニティソーシャルワークを展開するための圏域の設定や機能、地域生活課題の捉え方、問題解決のためのプログラム開発について学ぶ	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
17 : 00	終了	

※前期課程の終わりに、後期課程に向けた課題がでます。事例が抱える問題を解決するプログラムを後期課程までに考えてもらいます。

【後期課程】

【1日目】12月10日（木）

時間	内容	講師等
9 : 00	受付	
9 : 30 (170 分)	【演習④-2】 「コミュニティソーシャルワークの展開と問題解決プログラム開発 (2)」 ・問題解決プログラム立案、グループ発表 ・プログラムの立て方、データ活用、実現するための手順や方法等について学ぶ	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
12 : 20	昼食・休憩	
13 : 20 (60 分)	【演習④-2（続き）】 「コミュニティソーシャルワークの展開と問題解決プログラム開発 (2)」	
14 : 30 (150 分)	【演習⑤】 「日常生活圏域における支援システムの構築とソーシャルサポートネットワークの形成」 本人が有する社会的関係や地域資源との関係性に着目したソーシャルサポートネットワークの形成支援とそれを実行するための仕組みづくりについて考える	
17 : 00	終了	

【2日目】12月11日（金）

時間	内容	講師等
9:30～ (150分)	【演習⑤（続き）】 「日常生活圏域における支援システムの構築とソーシャルサポートネットワークの形成」	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
12:00	昼食・休憩	
13:00～ (140分)	【演習⑤（続き）】	
15:30～ (90分)	【総括講義】 地域共生社会の実現に向けて専門職に求められる役割や必要な視点や考え方を再確認するとともに、今後のコミュニティソーシャルワーク実践のポイントを押さえる	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏
17:00	終了	

10. 参加申込み

- (1) 申込期限 令和8年9月30日（水）
→令和8年10月23日（金）まで
期間を延長して受け付けます。



参加申込フォーム用
QRコード

(2) 申込方法

【Google フォームからの申込】(①又は②の方法で参加申込フォームにアクセスください)

- ①次のURLから参加申込フォームにアクセスし、必要事項をご入力ください。

URL: <https://forms.gle/FBaS6WPTQQAPAxrQ7>

- ②本会（福祉カレッジ）ホームページ <https://www.toyama-shakyo.or.jp/> の
令和8年度地域包括ケアとコミュニティソーシャルワーク研修の実施要項・申込書ダウンロードページに参加申込フォームへのリンクがあります。

【メールでの申込書送信】

ダウンロードした申込書にご入力の上、次のメールアドレスに送信ください。

メールアドレス oohata@wel.pref.toyama.jp

- (3) 参加費 20,000円（テキスト代込み）
16,700円（テキスト代なし）

（テキストは、『地域福祉とは何か』（中央法規）を使用します。既にテキストをお持ちの場合やご自身で購入される場合は、参加費は16,700円となります。）

(4) 参加費及びテキスト代金のお支払い方法

10月23日（金）までに下記指定口座へお振込みください。

間に合わない場合は事務局にご相談ください。

なお、振込手数料はご参加される方においてご負担願います。

北陸銀行 県庁内支店 普通預金 No.1083785
口座名義：社会福祉法人 富山県社会福祉協議会

(5) その他

申込多数の場合は、参加人数の調整やお断りをさせていただく場合があります。
その際は、申込期限後、10日以内にご連絡し、参加費は後日返金いたします。

11. その他

- (1) 前期課程の終わりに、後期課程に向けた課題がでます。事例が抱える問題を解決するプログラムを後期課程までに考えてもらいます。
- (2) 全課程の受講を条件に修了証書を交付します。
- (3) 本研修へのご参加にあたり、別紙「個人情報の取扱いに関する誓約書」に署名の上ご提出いただきますことをご了承ください。誓約書は研修初日に受付でご提出ください。

12. 問合せ先（事務局）

富山県社会福祉協議会 地域福祉・ボランティア振興課〔担当：大畑〕

〒930-0094 富山市安住町5番21号

TEL: 076-432-6123 FAX: 076-432-6124 E-mail: oozata@wel.pref.toyama.jp

《受講者の声》

先生との双方向のコミュニケーションがありながら、受講生同士の意見交流を図り知識が深まり、新たな発見が多くありました。(R5)

ソーシャルワークとは何かという根本的な事と社会変革の時代にソーシャルワークはどのように個人や社会にアプローチしていくのか、視点を広くもつことの必要性を感じました。(R5)

既存の制度やサービスだけでなくネットワーク形成や社会資源の開拓で地域づくりを目指すことを学ぶことができた。(R6)

エビデンスをもつことの必要性を再確認できた。比較的ナラティブに偏りがちな部分を、今後は根拠はどこにあるのかもしっかり確認できるように相談支援業務に反映したい。(R6)

ケアマネの研修とはまた少し違う視点での講義で、すごく面白くたくさん学べました。潜在的ニーズや狭間の人へいかに対応していくかなど、今後の自分の立ち位置や姿勢を改めて考えることができました。(R7)

アウトリーチの重要性について改めて学ぶことができた。訪問する時に今回学んだことを念頭において訪問したい。(R7)

令和8年度 地域包括ケアとコミュニティソーシャルワーク研修 参加申込書

* 太枠内をご記入ください。

団体・ 機関名			ご担当者名				
			電話		- -		
住所			FAX		- -		
フリガナ 参加者名	所属・役職	参加費	テキスト代	小 計	関心のある事例 実施要項の「事例①～③」のうち、関心のある事例の番号を2つご記入ください。 グループ編成の参考にさせていただきます。(※ご希望に沿えない場合があります)		
	参加者のメールアドレス	16,700 円	3,300 円				
		下記の欄に金額をご記入ください ※テキストをご自身で用意される場合は、参加費の欄のみご記入ください。					
例	フクシ タロウ 福祉 太郎	〇〇地域包括支援センター・介護支援専門員 ×××@□□□.jp	16,700 円	3,300 円	20,000 円	第1希望 ①	第2希望 ③
1			円	円	円		
2			円	円	円		
3			円	円	円		
※参加者のメールアドレスは、課題についての連絡や様式を送信するなどで利用します。お間違いのないように記載してください。 ※請求書は発行しませんので、必要場合は「請求書希望」の旨と、請求先の宛名を通信欄ご記入ください。なお、お振込みが確認できた場合は、当日、インボイス制度対応の領収書をお渡しします。 ※テキスト代のみを現金でお支払いされる場合は、その旨を通信欄にご記入ください。					お振込額 合計		円
[通信欄]							

参加申込フォームQRコード

【Googleフォームからの申込み】(①又は②の方法で参加申込フォームにアクセスください)

①次のURLから参加申込フォームにアクセスし、必要事項をご入力ください。URL: <https://forms.gle/FBaS6WPTQQAPAxrQ7>

②本会(福祉カレッジ)ホームページ <https://www.toyama-shakyo.or.jp/> の令和8年度地域包括ケアとコミュニティソーシャルワーク研修の実施要項ダウンロードページに参加申込フォームへのリンクがあります。

【メールでの申込書送信】

メールアドレス: oohata@wel.pref.toyama.jp



* 締切 令和8年10月23日(金)

個人情報の取扱いに関する誓約書

私は、「地域包括ケアとコミュニティーソーシャルワーク研修（以下「本研修」という。）を受講するにあたり「個人情報の保護に関する法律」（平成 15 年法律第 57 号）の趣旨を踏まえ、下記の事項を遵守いたします。

記

1. 受講中に知り得た個人情報は、本研修中又は本研修終了後においても、正当な理由なく第三者に漏らしません。
2. 本研修で使用了事例にかかる資料及びメモ等を含む記録物については、本研修のみに利用することとし、本研修中又は本研修終了後においても、正当な理由なく第三者に漏らしません。

社会福祉法人富山県社会福祉協議会
会 長 新 田 八 朗 様

年 月 日

（所属事業所） _____

（受講者氏名） _____